

とちぎの子どもたちへの教え

～人として、してはならないこと、すべきこと～

- 各学校では、児童生徒、学校及び地域の実態を考慮し、適宜、事項を追加するなどして、指導を行うことが重要です。
- 家庭や地域社会においても積極的に「教える」ことが効果的であり、学校と家庭や地域社会とが連携を図りながら推進していくことも大切です。

中学校

自他の生命を尊重し、規律ある生活ができ、自分の将来を考え、法やきまりの意義の理解を深め、主体的に社会の形成に参画し、国際社会に生きる日本人としての自覚を身に付けるようにすること

法やきまりの理解を深める

自他の生命を尊重する

地域社会の一員としての自覚をもつ

時と場合に応じた適切な言動をとる

様々な集団の意義について理解する

小学校 高学年

法やきまりの意義を理解すること、相手の立場を理解し、支え合う態度を身に付けること、集団における役割と責任を果たすこと、国家・社会の一員としての自覚をもつこと

法やきまりの意義を理解する

時と場をわきまえる

人々と助け合う

集団の中で自分の役割を果たす

異なる立場を大切にする

小学校 中学年

集団や社会のきまりを守り、身近な人々と協力し助け合う態度を身に付けること

約束やきまりを守る

友だちと助け合う

みんなのために働く

過ちを素直に改める

嫌がられることをしない

小学校 低学年

あいさつなどの基本的な生活習慣、社会生活上のきまりを身に付け、善悪を判断し、人間としてしてはならないことをしないこと

あいさつをする

うそをつかない

人のものをとらない

人に暴力をふるわない

人の悪口を言わない

【推進に当たっての留意点】

- 学校生活全体で、機会を捉えて教える。
- 「分かっているはず」と思い込まない。
- 学校全体で共通理解を図り、同一歩調を進める。
- 家庭や地域社会への協力を呼びかける。